

川に注ぐ。

スガフケチ 菅生口 江沼郡の地名。朝倉始末記に、天文廿三年大野勢一千餘騎菅生口に屯したといひ、又弘治元年七月朝倉玄蕃助・福岡三郎左衛門が菅生口に屯したなど、ある。江沼志稿に、菅生口は今の菅生村・大聖寺永町・敷地橋邊をいふので、敷地橋も昔は舟渡であつたと天神社記に見えるところ。

スガフシヨウ 菅生庄 江沼郡に属するが、後世この庄名がない。今菅生がある。江沼志稿に、敷地村附近がそれであるとして居る。

スガフタニ 菅生谷 江沼郡四十九院谷に属する部落。斐恵紀開に、この村に藤丸の家の居蹟といふがあると記する。

スガフノミヤ 菅生の宮 江沼郡菅生石部神社をいふ。義經記に『くま坂へ出で、すがらの宮をよそに見て云々。』とある。

スガマシツ 菅眞静 中院通茂の門人で、和歌を能くし、國學に通じてみた。寶永三年通茂之を前田綱紀に勸めて祿せしめた。眞静は江戸・金澤の間を往來して、綱紀の爲に源氏物語の講を進め、源語釋義十卷を作つた。子又四郎また享保九年七人扶持を受けた。

スガモテイ 巢鴨邸 ↓コマガモテイ 駒込邸。

スガヤトシヲ 菅屋年緒 金澤の俳人。通稱半七。安江町に住し、江戸三度を業とした。所居は初め繁舟居といひ、後に幾曉庵二代を襲いだ。弘化元年正月五日歿。その著に草萌集がある。享年は詳かでないが、既に七十三と記したものがあつた。

スガヤマシミ 菅屋眞澄 金澤の俳人。年

緒の子。通稱儀右衛門、江戸三度を業とした。槐庵八代・幾曉庵三代を襲ぎ、明治に入つて苗字を菅谷と改め、八年一月七日歿した。

スガヲシヒコジンジャ 菅忍彦神社 鹿島郡能登島の飯目に鎮座する。能登名跡志に、『此村に嶽の宮とてあり。菅忍彦神社といへり。』と見え、今の嶽神社である。

スガヲシヒメジンジャ 菅忍比咩神社 鹿島郡笠師に鎮座する。式内等舊社記に『菅忍比咩神社。式内一座。笠師保内笠師村菅谷鎮座。釋曰面大明神。保内四箇村惣社也。』とあり、又能登名跡志には『菅忍比古神社立給ふ。笠師の保内村氏神にて、祭禮毎歳八月十三日也。神主井田氏也。』と見えるが、比古は比咩の誤である。

スギウネメ 杉采女 横山長知の家士。慶長五年大聖寺の役に、本丸に乗込み負傷したが首を得、後二百石を加増せられて五百石となり、元和元年大坂夏の役に亦奮闘して前田利常から銀二枚・帷子二を賞賜せられた。越登賀三州志には之を載せぬ。

スギウラゲンニン 杉浦玄任 壹岐法橋。金澤御坊の坊官である。天正二年越前の一揆起つて、援を金澤御坊に求めた時、二月玄任は下間頼照と共に兵を進め、先に朝倉義景に反して織田信長に通じた金津城主溝江大炊介長逸を攻め之を殺した。當時武田勝頼が卯月廿六日附の消息に杉浦紀伊守宛のものがあるが、この紀伊守は壹岐を誤開したものであらう。かくて越前が一揆の指揮に属するに及び、玄任は足羽郡の政務を管することになつたが、三年信長の越前に侵入するや、敗れて加賀に退き、次いで七里頼周との間に衝突を

生じ、七里黨の排擠する所となつて、十一月か十二月に生害を命ぜられた。

スギウラマチ 杉浦町 金澤の町名。水溜御歩町の上、新堅町の裏町である。古へ杉浦氏の預り足輕の組地であつたによつて呼ぶ。

スギウラモリナリ 杉浦守成 通稱仁右衛門。初め安藤氏。慶長八年池田輝政に仕へて氏を杉浦と改め、寛永十四年前田利常に轉じ、祿途に八百石に至り、慶安二年足輕頭となり、寛文四年初めて喧嘩追懸物役に任じ、延寶六年歿。子孫世々藩に仕へる。

スギウラリユウホウ 杉浦立芳 金澤の俳人。通稱庄五郎。堅町に住して金蘭齋を營み、小春庵四代・二夜庵四代を繼席した。明治十三年三月廿四日歿。

スギエタンゴ 杉江丹後 越前府中に於いて前田利家に仕へ、後に八千石を領した。子孫世々藩に仕へる。

スギエヒヨウスケ 杉江兵助 杉江丹後の子。慶長五年大聖寺の役に於いて首一つを得、十九年大坂の役には第五隊の銃將を勤め、祿千三百石に至つた。後御小將頭となり、寛永六年歿した。

スギサカテツ 杉坂徹 諱は徹、字は儀一、通稱安次郎、號は草蓬。父兵馬は本多式部に仕へたが、故あつて土籍を脱した。徹幼より書を讀みて人に授け、又嘗て伊藤氏に仕へたが、母の歿後之を辭し、文久三年七月九日齡五十を以て歿した。

スギジンジャ 須岐神社 延喜式神名帳加賀郡に須岐神社があるが、その所在は不明である。式内等舊社記にも『須岐神社。式内一座。往古以來之鎮座地未詳。或云赤濱八幡社

内鎮座歟。』とあり、その赤濱八幡社は、近時別項所載の須岐神社に併合せられたものである。

スギジンジャ 須岐神社 河北郡東蚊爪に鎮座する。この須岐神社が式内のそれであるか否かは明らかでない。何故なら式内等舊社記に須岐神社が赤濱八幡神社に合併せられたものゝ如く、その社地が明らかでないことを記してあるからである。然るにこの須岐神社は却つて大正元年に赤濱八幡神社を併合してゐるのである。式の須岐神社が中斷されてゐたと見るより外ない。

スギタウゲ 杉峠 能美郡三谷より越前大野郡上小池に至る峠。

スギタニ 杉谷 鹿島郡金丸の内の小字。

スギノキ 杉ノ木 鳳至郡寺山の内の小字。

スギノセ 杉ノ瀬 河北郡井上庄に属する部落。淺加久敬の道程記に、『杉瀬村入口右の方に野の宮見ゆる。小坂あり。だまし坂・赤坂・さいしん坂。此村持山の内往還道の脇に大山と申處有。先年豊臣秀吉公御馬を立られし所の由云傳ふなり。』と見える。この領内に猪塚がある。

スギノゼンザブロウ 杉野善三郎 善兵衛の子。祿四百石。元和元年大坂役に出陣し、黒門の下にあつた火薬の長持に腰をかけたところへ、櫓の内より發した銃丸が中り、爆發して火傷を負ひ、五月十六日死亡した。

スギノゼンベエ 杉野善兵衛 越中守山に於いて初めて前田利長に仕へた。子孫藩に世襲する。

スギノチヨウスイ 杉野超翠 金澤の俳人。棹江の養嗣子で、尾張町に米仲買を業とし、